

「一通の手紙」

参考著書「物語がある広告コピー」

名前は、親が子供に送る、

はじめての手紙

なのかもしれない。

わずか一文字か二文字。

だからこそ、親は悩む。

こんな子に育ってほしい。

いや、元気であれば、それでいい。

とにかく、生まれて来てくれて、ありがとう。

あふれる思いを胸に、紙に向かう。

お腹の生命に語りかけながら、ペンを動かす。

何度も書いて。

何度も考えて。

また、書く。

そうやって、大切につけられた名前。

それは、親が子供に送る、

「一通の手紙」なのだと思うのです。

子供たちは、人生という時間をかけて、

ゆっくり読んでくれるはずです。

その「手紙」を書いた日の、両親の思いを。

一生のうちで、自分の名前ほど目にする文字は、他にない。

そう、こんな繰り返し読まれる手紙は、他にないのです。

書くを、支える。PILOT

いかがですか？

これはPILOTの広告ですが、ひとり一人の物語を感じさせますね。

期待と希望をもって、誰でも生まれてきたんですね。

親の愛情を感じます！